

北海道浮魚ニュース

平成23(2011)年度5号

2011年 6月 21日

北海道立総合研究機構水産研究本部 函館水産試験場

ホームページ: http://www.fishexp.hro.or.jp/ukiuo/uki_index.htm

スルメイカ漁場一斉調査結果(道南太平洋)

スルメイカの漁獲は下北半島東沖で見られ、木直沖・浦河沖では見られなかった。魚体サイズは外套長 12cm にモードがあった。

調査船北辰丸で実施したスルメイカ調査の結果をお知らせします。なお、同じ航海中に行われた釧路水試分の調査結果については浮魚ニュース第4号を参照下さい。

- ・調査期間: 2011年 6月 14日 ~ 17日(釧路水試調査と連続)
- ・調査海域: 道南太平洋
- ・調査船: 北辰丸(216 t。イカ釣機 6台装備)

1. 水温分布

今年と昨年水温分布及び漁獲調査の結果を、図1及び図2に示しました。

漁獲調査点3点の表面水温は、下北半島東沖 St.8 で昨年を下回り、木直沖 St.1 と浦河沖 St.15 で昨年を上回りました。同じく漁獲調査点3点の50m水深の水温は、St.8 で昨年を下回り、St.1 と St.15 で昨年を上回りました。図中に等温線を示した海域全体の50m水深の水温は、浦河付近の沿岸に昨年に比べ低水温の海域が見られたほかは、全体として昨年と同程度でした。

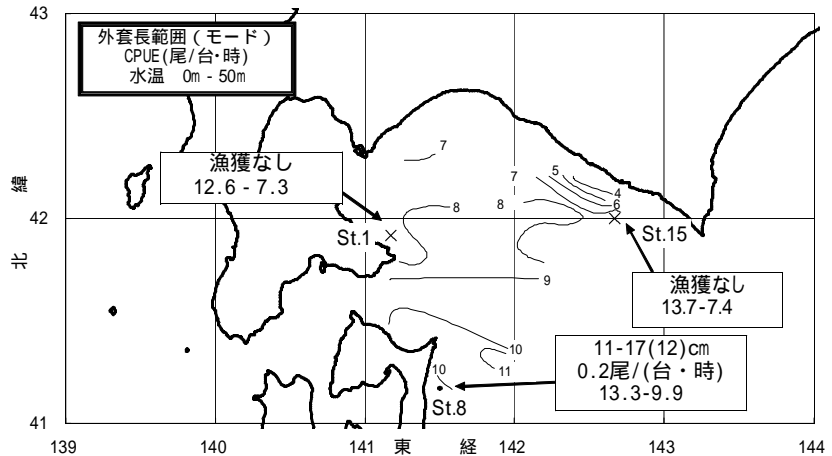


図1 2011年度の漁獲調査結果と水温(6月14-17日)

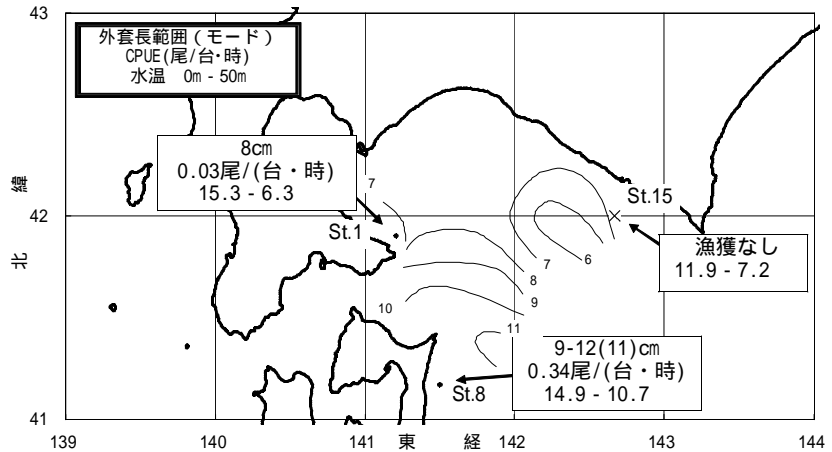


図2 2010年度の漁獲調査結果と水温(6月14-17日)

は漁獲調査点を示し面積はCPUEに比例、×は漁獲なし、は漁獲調査中止
等温線は50m水深の水温分布

表1 スルメイカ漁場一斉調査（道南太平洋6月）のCPUEと外套長の経年変化（2010年より調査船・日程を変更）

CPUE(尾/台・時間)	2002 6/24-28	2003 6/23-27	2004 6/21-25	2005 6/20-24	2006 6/19-23	2007 6/25-29	2008 6/26-30	2009 6/24-26	2010 6/14-17	2011 6/14-17
St.1(木直沖)	0.5	2.2	4.3	0.1	0	10.5	62.0	0	0.03	0
St.8(下北半島東沖)	2.3	1.3	-	0	0.1	4.5	17.7	23.8	0.34	0.2
St.15(浦河沖)	10.4	10.2	16.9	0	0	18.1	0	-	0	0
St.16(函館沖)	4.3	-	-	3.9	6.1	24.2	3.6	-	-	-
旧調査点4点平均CPUE	4.4	4.6	10.6	1.0	1.6	14.3	20.8	11.9	0.13	0.07
St.1, 8, 15平均CPUE	4.4	4.6	10.6	0.03	0.03	11.0	26.6	11.9	0.13	0.07
外套長の範囲(cm)	13-21	10-20	13-21	12-17	12-17	10-21	11-18	15-21	8-12	11-17
外套長モード範囲(cm)	15-17	14-17	18	14	15	16-17	14-15	18	8,11	12

2. 分布密度

2002年から2011年までの10年間の調査点別CPUE（2連式イカ釣機1台1時間当たりの漁獲尾数）を表1に示しました。なお、2010年以降の北辰丸による調査は、2002～2009年の金星丸による調査に比べ1～2週間早い時期に行われています。

漁獲調査点3点のうち、下北半島沖 St.8 では6尾の漁獲があり、CPUEは0.2でした。木直沖 St.1 と浦河沖 St.15 では漁獲がありませんでした（図1、図2、表1）。漁獲調査点3点の平均CPUEは0.07で昨年（0.13）を下回りました（表1）。

3. スルメイカの大きさ

漁獲されたスルメイカの外套長の範囲は11～17cm（昨年8～12cm）にありました。海域全体のモード（最も多く漁獲されたイカの大きさ）は12cm（昨年11cm）で、昨年見られた10cm以下の小型の個体は漁獲されず、昨年見られなかった15cm以上の個体が漁獲されました。（図3、表1）。

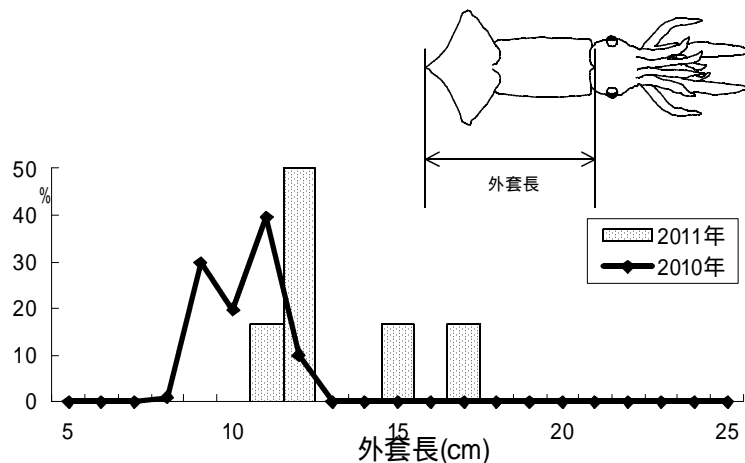


図3 調査海域全体の外套長組成

（文責：函館水産試験場調査研究部、TEL：0138-57-6056 直通、FAX：0138-57-5991）